

# 民主文学 4

月号から新連載スタート

この機会に『民主文学』をぜひご購入ください。



1949年、香川県生まれ。新日本婦人の会会員。「おんな・こどもをなめんなよ!の会」「あかん!カジノ女性アピール」事務局・女性問題研究会。週一回、しんぶん赤旗近畿版に「ことばとイラスト」を連載中・日本民主主義文学会会員。著書に『短編集インザ・ボックス』。「FLOWER」「伸ばした手の先に」「うちの『女子同盟』」など『民主文学』に掲載。

川本 幹子 (かわもと みきこ)



## つなぐのはことば——大阪発・声を上げる女性たち

ジェンダー平等・雨のち晴れで虹をかけよう!

### 作者の言葉

「団塊」と呼ばれる世代の真ただ中に生まれた一人。祭りに行くとき必ず傷痍軍人が白い服を着て黙って立っていた。「お国のために尽くした私はこのような姿で帰ってきました」とその姿は物語っていた。子ども心に辛くて、怖かった。「戦争を知らない子どもたち」だったが、「戦火を潜り抜けた大人たち」と生きてきた。中学2年、母にコンソツと告げた生理の始まり、真っ黒なショーツだった。中学校は14クラス、1クラス50人超えて、高校では受験競争、そのまま社会に押し出され、高度経済成長の時代へ。1975年は国際婦人年。その頃、新日本婦人の会に入会、大阪北支部や府本部の専従に。「男女平等や女性の地位向上」を、そして何よりも憲法を守り、平和を求める会。女性たちの声に聞く耳持たず、弱者を認めない維新の会が大阪に誕生。選挙で勝てば何でもできると「ハシズム」とも言われた府知事、鞍替えした大阪市長時代に放った「慰安婦」暴言。男社会が求めるものに従えと個人の尊厳無視、歴史をゆがめたことに、女たちは怒った。大きな塊の一かけらのそのまた一粒だけでも、たくさんの仲間とジェンダー平等を掲げて維新の理不尽にも対峙してきた。



しんぶん赤旗近畿版より

「ジェンダー平等」をめざす先に立ちほだかるな。誰にも言えなかった「生理の貧困」が社会問題になる時代に私たちは生きています。つなぐのはことば。立ち向かうのもことば。生きづらさを感じる誰かの思いと、どこかで響き合えたら、と小説を書き、またボードに思いを書いて玄関先からも発信中。

★下の用紙を切り取って、FAXあるいは郵送でお申込ください。雑誌は直接ご自宅にお送りします。

## 購読申込書

申し込み

民主文学購読費 月額988円(送料込み)

月 日

FAX番号 03(5940)6339

いずれかに○印をつけてください。

( ) 4月号より定期購読する。

( ) 「つなぐのはことば」

連載中のみ定期購読する。

お名前

ご住所 〒

電話番号